

バイオネクト Q&A

こんな疑問、ありませんか？

2006年1月

バイオネクト は、食用油脂と有機銅とのこれまでにない全く新しいタイプの殺菌剤です。これから使ってみようとしているあなた！でも、いろいろな疑問や不安がありますね。初めて使う農薬というのは、「効果はあるのだろうか？」、「これまでに使っていた農薬と何が違うのだろうか？」、「安全なのかな？」、「使いやすいのかな？」等々……。

そんなみなさんの疑問にお答えするために、「バイオネクト Q&A」を作成しました。この「バイオネクト Q&A」をよくお読みになって、バイオネクトという殺菌剤を知ってくださればと思います。さらに、実際に使うことによって、水溶性パックの使い易さ、安全性、そしてもちろんの事ですが、その優れた効果を実感してください。

サンケイ化学株式会社

ビオネクト Q&A 質問項目一覧

- Q-1 ビオネクトの有効成分は何ですか？
- Q-2 「脂肪酸グリセリド」ってなんですか？
- Q-3 有機銅剤は散布すると葉や果実が汚れるのに、有機銅を有効成分の一つに持っているビオネクトは汚れがほとんどない、あるいは少ないのはどうしてですか？
- Q-4 これまでの有機銅剤と比べたときのメリットはなんですか？
- Q-5 耐雨性や残効性が優れているということですが、これまでの有機銅剤と比較してどうですか？
- Q-6 散布水量を少なくしたいのですが、可能ですか？
- Q-7 残効性が優れているのはどうしてですか？
- Q-8 散布後、雨が降ってしまいました。効果に影響はありますか？
- Q-9 水溶性フィルムを採用した理由はなんですか？
- Q-10 水溶性フィルムはタンクの中で溶けてしまうのですか？
- Q-11 水溶性フィルムが溶けて、それが散布ノズル等に詰まることはないのですか？
- Q-12 外袋には農薬は付着してないようですが、一般家庭ごみとして処分してもいいのですか？
- Q-13 展着剤は必要ですか？
- Q-14 有機銅に耐性菌はいないのですか？
- Q-15 現在の登録内容を教えてください。
- Q-16 有効成分に銅が含まれていますが、散布時に体にかかっても大丈夫ですか？

Q-1 ビオネクトの有効成分は何ですか？

A-1 ビオネクトの有効成分は2種類あります。一つは食用油脂の1種である脂肪酸グリセリド。もう一つは有機銅です。脂肪酸グリセリドはビオネクトの製剤中に55%含有されており、有機銅は30%含有されています。

Q-2 「脂肪酸グリセリド」ってなんですか？

A-2 ヤシ油を原料にした食用油脂の1種で化粧品、医薬品、食料品などに幅広く利用されている物質で、ミツバチや天敵に対する影響が少なく、安全な物質です。

Q-3 有機銅剤は散布すると葉や果実が汚れるのに、有機銅を有効成分の一つに持っているビオネクトは汚れがほとんどない、あるいは少ないのはどうしてですか？

A-3 これまでの有機銅剤は、散布後付着の状態が不均一でムラがあり、薬剤の濃淡が生じて濃いところが汚れとなっているのではないかと考えられます。これに対し、ビオネクトは有効成分の一つである脂肪酸グリセリドの働きにより、散布後の葉や果実に対する付着性が向上し、ムラなく均一に薬剤が付着することにより、見た目の汚れが少なくなっていると考えられます。

Q-4 これまでの有機銅剤と比べたときのメリットはなんですか？

A-4 これまでの有機銅剤に比べると、残効性や耐雨性に優れていること。散布後の葉や果実に対する汚れが少ないということ。うどんこ病に優れた効果を発揮するということ。水溶性パックの採用により、散布者の農薬からの被爆が最小限に抑えられるということ。そして使用後の容器には農薬が付着してないので処理が簡便であるということ…。等々です。

Q-5 耐雨性や残効性が優れているということですが、これまでの有機銅剤と比較してどうですか？

A-5 既存の有機銅剤と比較すると、耐雨性、残効性ともに、ビオネクトは優れているという試験結果が社内試験だけでなく外部の試験としても実施されており、確認されています。



ちょっと一言！①★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

水溶性フィルムは、水の中に入れるとすぐに溶けてしまいます。完全に溶けてしまいますので、散布器具のノズルやフィルターに詰まることはありません。また、ビオネクトは外袋としてアルミ製の袋を使用しており、その外袋のなかにビオネクトを充填させた水溶性フィルムが入っています。通常の見扱ひでは破袋の心配はありませんが、鋭利な物などで突かないでください。穴があき、内容物が流れだす場合があります。また、濡れた手で水溶性フィルムに触れると溶けてしまいますので、濡れた手で触れないようにしてください。外袋を開封し、そのままタンクに入れれば大丈夫です。



Q-6 散布回数を少なくしたいのですが、可能ですか？

A-6 散布回数を減らすことができるかどうかは実証試験が未実施のため、現在のところはっきりしません。したがって、病害防除に関して散布間隔を広げ、回数を減じると場合によっては効果が十分に発揮されないことも考えられますので、現状ではお勧めできません。

Q-7 残効性が優れているのはどうしてですか？

A-7 ビオネクトの有効成分の一つである脂肪酸グリセリドの働きによって、植物体への付着が高まり、結果として既存の有機銅剤と比較すると残効性が高まります。

Q-8 散布後、雨が降ってしまいました。効果に影響はありますか？

一般的に、処理後3～6時間経過すれば降雨の影響は少なくなるといわれていますが、処理後の日照や気温、風の状態、また植物体の葉の表面の状態によっても影響を受ける割合は異なってきます。また、当然ながら雨の強度、雨量、降雨時間によっても影響の割合は異なります。しかしながら、本剤は脂肪酸グリセリドを含んでいるために、植物への付着性が優れており、結果として耐雨性についても既存の有機銅剤に比べ優れているという試験結果があります。したがって、既存の有機銅剤に比べると降雨の影響は受けにくいと考えられます。

Q-9 水溶性フィルムを採用した理由はなんですか？

A-9 環境への負荷軽減、散布者への農薬被曝軽減、作業の簡素化等を目的として採用しました。

Q-10 水溶性フィルムはタンクの中で溶けてしまうのですか？

A-10 水溶性フィルムは水中で短時間に完全に溶けてしまいます。その時間は攪拌の仕方にもよりますが、15秒～25秒程度です。これまで、水和剤等で使用されていた水溶性フィルムと違い、水に対する溶解性がすぐれているため、塊になって溶け残りたりするようなことはありません。

Q-11 水溶性フィルムが溶けて、それが散布ノズル等に詰まることはないのですか？

A-11 水溶性フィルムは水中で短時間に完全に溶けてしまいますので、ノズル等に詰まることはありません。安心してご使用いただけます。

Q-12 外袋には農薬は付着してないようですが、一般家庭ごみとして処分してもいいのですか？

A-12 ビオネクトの外袋には薬剤は付着していませんが、農薬の袋ということで一般家庭ゴミとして処分することはできません。他の農薬と同様に廃棄物処理をお願いします。ただし、ビオネクトの場合は外袋には農薬は付着していませんので、洗浄等の作業は必要ありませんが、万が一、薬剤が付着した場合には洗浄後、処分してください。



ちょっと一言！ ②★★

ビオネクトには有機銅が有効成分の一つとして含まれています。銅剤の歴史は古く、今からおよそ120年に、ヨーロッパで農薬として使用されたのが最初だといわれています。そのわずか十数年後には日本で最初に銅剤が使用されたそうです。そして現在まで、銅に対する耐性菌の存在は確認されていないようです。つまり銅剤は、耐性菌の出現しない農薬……と、言えるのかもしれませんが。

★★

Q-13 展着剤は必要ですか？

A-13 ビオネクトに含まれている有効成分の一つである脂肪酸グリセリドは、それ自体が展着効果を有していますので、特に展着剤を加える必要はありません。

Q-14 有機銅に耐性菌はいないのですか？

A-14 耐性菌は確認されておりません。

Q-15 現在の登録内容を教えてください。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
ブドウ	黒とう病 枝膨病	500倍	休眠期～ 開花期前	3回	散布
リンゴ	斑点落葉病 褐斑病 炭疽病 輪紋病	1000倍	収穫14日 前まで	4回	
カキ	炭疽病 落葉病 うどんこ病			5回	

Q-16 有効成分に銅が含まれていますが、散布時に体にかかっても大丈夫ですか？

A-16 安全性には問題はありませんが、一般的な農薬散布時の注意事項として、防護具の着用をお願いします。

ビオネクトにつきましては、今後とも技術情報をお知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。なお、ご質問等ございましたら、下記までお問い合わせください。